

# 北海道高等学校教育相談研究会

## 第 54 回研究大会

### 研 究 主 題

変化の激しい多様性の時代を  
しなやかに生きる力を育む教育相談を目指して

期 日 : 令和 8 年 1 月 9 日 (金)

会 場 : かでる 2・7

札幌市中央区北 2 条西 7 丁目

主 催 : 北海道高等学校教育相談研究会

後 援 : 北海道教育委員会

札幌市教育委員会

北海道高等学校長協会

北海道高等学校教育相談研究会  
<http://www.kousoken.hokkaido-c.ed.jp/>

## ご あ い さ つ

北海道高等学校教育相談研究会  
会 長 渡 辺 晃 史  
(北海道札幌白石高等学校長)

北海道高等学校教育相談研究会第54回研究大会が、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道高等学校校長協会のご後援を賜り、全道各地から多くの方々に参加をいただきながら盛大に開催できますことに、心より感謝申し上げます。

本研究会は昭和47年8月、学校教育相談の普及・発展を目的として、北海道学校教育相談研究会・高等学校部会としてスタートいたしました。その後、北海道高等学校教育相談研究会と名称変更し、時代の流れにあった教育研究団体として、組織や研究活動、広報等の在り方を見直しながら、54年目を迎えました。毎年1月に最大の事業である研究大会を開催しております。

今年度の研究主題は「変化の激しい多様性の時代をしなやかに生きる力を育む教育相談を目指して」です。関係者による長年の努力により、教育相談の普及は進んでいますが、子どもたちを取り巻く環境は急激に変化し、不登校や中途退学、いじめや人間関係のトラブルなどの減少は見られず、その状況は多様化・複雑化しています。私たち教職員も一層の研鑽が求められるなか、生徒一人ひとりが自らの力で人生を切り開き、自立した大人となるために、何ができるか、何をなすべきかを、皆様とともに考えていきたいと思ひます。

本研究会は充実した活動を展開されている各支部との連携を強固なものとし、先進的な実践や研究を収集し、会報や研究集録による情報発信・共有に努め、各学校の教育相談活動の充実に資することを目指しております。

本日は、東京理科大学教授 中村 豊 先生の全体講演をはじめ、各研修講座では道内外各地でご活躍の、開善塾教育相談研究所所長 藤崎育子 先生、北海道商科大学准教授 益子洋人 先生、北海道教育大学釧路校准教授 田中雅子 先生の講座を複数開講いたします。大変お忙しいなか、ご教示を賜りますことに感謝申し上げます。

また、十勝支部 帯広農業高等学校養護教諭 寺嶋理恵子 先生、後志支部 岩内高等学校教諭 福光 亮 先生、胆振支部 登別明日中等教育学校養護教諭 影山夏未 先生の各実践報告をご提供いただきました。重ねて御礼申し上げます。本日参加されている皆様が所属する各校の課題解決等のため、ご活用していただきたいと思います。

結びに、本大会が各学校現場の課題解決のヒントとなり、ともに意欲と勇気をもって明日の教育相談に向かう契機となることを祈念申し上げ、ごあいさつといたします。

令和8年1月9日

# 目 次

1	第 54 回研究大会開催要項	3
2	教育相談実践報告集	
(1)	令和 7 年度 後志支部 「本校における教育相談支援体制について」	
	北海道岩内高等学校 教諭 福 光 亮 氏	7
(2)	令和 7 年度 胆振支部 「本校の教育相談について ―令和 6 年度の取組―」	
	北海道登別明日中等教育学校 養護教諭 影 山 夏 未 氏	9
(3)	令和 7 年度 十勝支部 「本校の教育サポート委員会の活動について」	
	北海道帯広農業高等学校 養護教諭 寺 嶋 理恵子 氏	13
3	令和 7 年度 各支部の活動状況一覧	17
4	北海道高等学校教育相談研究会の組織及び規約	19
5	北海道高等学校教育相談研究会のあゆみ	24
6	相談窓口案内	32

## 北海道高等学校教育相談研究会 第54回研究大会開催要項

- 1 研究主題 「変化の激しい多様性の時代をしなやかに生きる力を育む教育相談を目指して」
- 2 目 的 北海道の高等学校における教育相談活動の発展に寄与する
- 3 主 催 北海道高等学校教育相談研究会
- 4 後 援 北海道教育委員会 札幌市教育委員会 北海道高等学校長協会
- 5 期 日 令和8年(2026年)1月9日(金)

受 付	開 会 式	全 体 講 演	昼食・休憩	研修講座Ⅰ部	研修講座Ⅱ部	閉 会 式
9:10 ～9:40	9:40 ～9:55	10:00～11:50	11:55 ～12:55	13:00 ～14:30	14:45 ～16:15	16:20 ～16:30

- 6 会 場 かでる2・7 (住所：札幌市中央区北2条西7丁目 電話：011-204-5100)

### 7 内 容

#### (1) 全体講演

演 題 「いじめ重大事態調査から見たことー危機対応を考えるー」

講 師 東京理科大学 教育支援機構教職教育センター 大学院理学研究科科学教育専攻  
教授 中 村 豊 氏

#### 〈経歴〉

公認心理師、学校心理士 SV、ガイダンスカウンセラーSV、学校カウンセラーSV  
博士(教育学)

大学卒業後、公立小学校・中学校勤務後、関西学院大学文学部に転職、教育学部の設置に伴い移籍。その後、東京理科大学に再転職し現在に至る。

東京理科大学では教育支援機構教職教育センター副センター長として教職課程に係る研究と教育活動と大学院理学研究科科学教育専攻の科学教育理科コースを担当。初等中等教育における学校臨床に関する実践や研究の他、義務教育段階で苦戦してきた生徒の多い公立高校定時制や教育支援センターでのスクールカウンセラーとして相談業務に従事。

主な所属学会は日本学校教育相談学会(学会誌作成委員会、委員長)、日本特別活動学会(副会長)、日本生徒指導学会(全国理事)等。

#### 〈単著〉

- ・『子どもの基礎的人間力養成のための積極的生徒指導 児童生徒における「社会性の育ちそびれの考察」』学事出版、2013年
- ・『子どもの社会性を育む積極的生徒指導』学事出版、2015年

#### 〈編著・共著〉

- ・『重大事態をどう防ぐ? 事例とチェックリストでつかむ学校のいじめ対応の重要ポイント』第一法規、2024年
- ・『養護教諭一知っておきたい保健と教育のキーワード』第一法規、2024年
- ・『生徒指導提要：改訂の解説とポイント』ミネルヴァ書房、2023年
- ・『Q&A 新生徒指導提要で読み解く これからの児童生徒の発達支持』ぎょうせい、2023年
- ・『学校教育相談の理論・実践事例集 いじめの解明』第一法規、2019年
- ・『新しい教職教育講座 教職教育編⑨特別活動』ミネルヴァ書房、2018年・2025年

いじめ防止対策推進法施行以降、多くのいじめ重大事態調査に関わってきた。いじめが重大事態化する端緒は、いじめを認知してからの初期対応および平時の生徒指導にある。本講演ではいじめ重大事態調査の経験や調査報告書文献研究からの知見から危機対応を考える。

## (2) 研修講座（選択）

### ◇研修講座1 講義「教師が取り組む教育相談の実際」

講 師 開善塾教育相談研究所 所長 藤 崎 育 子 氏

#### 〈略歴〉

大学卒業後、韓国ソウル市の延世(ヨンセ)大学に語学留学。帰国後、韓国観光公社東京支社等の勤務を経て、財団法人松下政経塾に14期生として入塾。在塾時に埼玉県狭山市で開善塾教育相談研究所を設立した塾長金澤純三氏（故人）に出会い、不登校・ひきこもりの青少年へのアウトリーチ（訪問相談）を学び、現在に至る。

文部科学省不登校に関する調査研究協力者会議委員、

埼玉県教育委員(委員長、教育長職務代理者)、

茨城県就学前教育・家庭教育推進会委員・訪問型支援スーパーバイザー等。

令和7年度は全国教育研究所連盟及び子ども家庭庁の委託研究・事業(兵庫県丹波市)に参画。

産経新聞解答乱麻コラム、読売新聞教育相談メール回答者、NHK教育テレビ出演等。

資格 公認心理師

#### 〈著書〉

・『生徒指導提要改訂 解説とポイント』ミネルヴァ書房、2023年（共著）

#### 〈その他〉

開善塾では、全国どこにでもアウトリーチ(訪問相談)を行っています。また、群馬県神流町にある元小学校の校舎で、ほぼ毎月、体験宿泊活動も行っています。親元を離れ、仲間と共に寝食を共にする経験を重ねることで、ひきこもっていた子どもたちが学校や社会に復帰しています。

毎年、夏休みに教育相談実技研修会を開催しており、今年で36年目を迎えます。生徒指導、教育相談の技法を学びながら、学校文化を守る教師という仕事の奥深さについて、次世代の先生方に伝えていきたいと考えています。

第36回は2026年8月6日～8日(於オリンピックセンター)を予定しています。

詳細はホームページにて<https://kaizenjuku.org>

中学校で不登校を経験した生徒で、高校入学後に順調に通える子どもがいる一方、通信制高校等への進路変更を余儀なくされるケースは年々増える一方です。生徒とのこころのキャッチボールができる教育相談の実際とは。事例から考えたいと思います。

### ◇研修講座2 講義「子どものもめごと解決スキル ―メディエーション―」

講 師 北海商科大学商学部 准教授 益子 洋人 氏

#### 〈略歴〉

明治大学大学院文学研究科 博士後期課程修了、博士（人間学）

栃木県スクールカウンセラー、明治大学文学部助教、北海道教育大学准教授等を経て、現在、北海商科大学准教授。公認心理師、臨床心理士・上級教育カウンセラー・認定ピアメディエーター。

日本カウンセリング学会「学校カウンセリング―松原記念賞」（2013年）、日本学校メンタルヘルス学会「最優秀論文賞・中島一憲記念賞」（2017年）、日本カウンセリング学会「奨励賞」（2018年）を受賞。

座右の銘は、「甘え合い、支え合い」。

#### 〈著書〉

・『教師のための子どものもめごと解決テクニック』金子書房、2018年

#### 〈編著〉

・『ガイドブック あつまれ！ みんなで取り組む教育相談』明石書店、2022年

・『スクールカウンセラーのための主張と交渉のスキル』金子書房、2024年

生徒にとって、他者との衝突と、その解決は、自他の区別と健全なアイデンティティを発達させるための重要な機会です。そのため、教師には、生徒が安全に衝突するのを応援するテクニックが求められます。この講演では、その一つであるメディエーションをご紹介します。

◇研修講座3 講義・演習「『チーム支援』に求められるファシリテーションの力 —— ホワイトボード・ミーティング®を活用したケース会議——」（対面のみ オンライン配信なし）

講 師 北海道教育大学釧路校 地域学校教育実践専攻 発達教育実践分野 特別支援教育研究室  
准教授 田 中 雅 子 氏

〈略歴〉

元東京都立特別支援学校主任教諭・特別支援教育コーディネーター

2022 年 4 月から現職。

公認心理師、特別支援教育士（S.E.N.S）、臨床発達心理士、学校心理士、

ホワイトボード・ミーティング®認定講師、認定ワークショップデザイナー

〈著書〉（特別支援教育・ファシリテーション関連）

- ・『ホワイトボード・ミーティング®でつくる「個別の指導計画」』特別支援教育の実践情報  
2025 年 4 月号～ 明治図書（共著）
- ・『特別支援教育コーディネーターのオシゴトの悩みを解決します！』実践みんなの特別支援教育  
2024 年 4 月号～2025 年 3 月号 Gakken
- ・『ホワイトボード・ミーティング®でファシリテーターになろうー特別支援教育編』  
株式会社ひとまち、2021 年（共著）
- ・『通常学級で活かす特別支援教育概論』ナカニシヤ出版、2021 年（共著）
- ・『現代の特別ニーズ教育』文理閣、2020 年（共著）

教育相談においてチーム支援がキーワードになっています。関係者が一堂に会しただけではチーム支援になりません。その場にはファシリテーションが必要です。ファシリテーションの手法の一つであるホワイトボード・ミーティング®を活用したケース会議の演習を通して、ファシリテーションにチャレンジしましょう。

# 教育相談実践報告集

## （１）後志支部

本校における教育相談支援体制について

北海道岩内高等学校

教諭 福光 亮 氏

## （２）胆振支部

本校の教育相談について ―令和６年度の実践―

北海道登別明日中等教育学校

養護教諭 影山 夏未 氏

## （３）十勝支部

本校の教育サポート委員会の活動について

北海道帯広農業高等学校

養護教諭 寺嶋 理恵子 氏



## 「本校における教育相談支援体制について」

北海道岩内高等学校

教諭 福光 亮

### 1 はじめに

本校は、地域産業ビジネス科1間口、普通科2間口の計9学級で、全校生徒185名が在籍している。岩内町に加え近隣の共和町、泊村、神恵内村を含めた4町村から進学してくる生徒が大半を占めている。

小・中学校時に特別支援学級に在籍していた生徒や、発達障がいの診断を受けているなど、特別な配慮を必要とする生徒も一定数在籍している。また、中学校までに不登校経験がある生徒も多く、他者とコミュニケーションを取ることに苦手意識を持つ生徒や、不登校により学習習慣が身についておらず、低学力等の問題を抱えている生徒などもある。

### 2 本校における支援の内容

#### (1) 組織について

本校では、特別支援委員会において、教育相談に関する取り組みも行っている。委員会の構成メンバーは、教頭、特別支援コーディネーター2名、教務部・生徒指導部・各年次から1名ずつ、養護教諭となっている。月に1回程度、定例の委員会を開催し、生徒の情報共有や支援内容についての検討を行っている。

#### (2) 学校適応感尺度「アセス」の実施

1・2年次は年2回（6月と12月）、3年次は年1回（6月）学校適応感尺度「アセス」を実施している。結果は校内ネットワークで全員分を閲覧できるようにするとともに、支援が必要と判定された生徒については、担任や年次団、特別支援委員などが個別面談を実施している。また、分析結果をスクールカウンセラーにも確認してもらい、対応方法について助言を受けたり、必要に応じてスクールカウンセラーとの面談の機会を設けたりしている。

#### (3) 1年次全員面談

例年6月頃に、1年次を対象とした全員面談を実施している。面談の担当教員は、特別支援委員と1年次団が担っており、担当生徒は基本的にランダムに決めている。ただし、特別支援の対象生徒や不登校経験のある生徒については、特別支援コーディネーターが担当したり、本人が話しやすいと考えられる教員を当てるなどの配慮を行っている。

面談時間は1人15分程度とし、質問項目は事前に設定し、学習面、部活動、友人や先輩・教員等との対人関係、家庭での過ごし方、進路等について聞くこととしている。この面談は悩みを引き出す



ことを目的とするのではなく、今後の学校生活で悩みが生じた際に、教員へ相談することが選択肢となるよう、きっかけを作る機会として位置付けている。面談後は、回答内容や生徒の様子などをまとめ、担任や特別支援委員会で情報共有を行っている。

#### (4) いやしの部屋（教育相談室）の昼休み開放

「いやしの部屋」と呼ばれる教育相談室を設け、昼休みに開放している。開放時には特別支援委員のメンバーが輪番で常駐している。昼休みに教員と話をしたい生徒や、教室とは異なる静かな場所で過ごしたい生徒が利用をしている。近年は利用者が減少し、来室者が1人もいない日が増えたため、今年度から事前予約制へと移行した。現在の利用件数は月に3～4件程度となっている。また、予約の時に、相談の有無を確認し、相談がある場合は他の生徒と利用が重ならないよう調整している。

#### (5) スクールカウンセラー事業の活用

今年度は、年7回・合計28時間、スクールカウンセラーに来校してもらい、生徒本人との面談を中心に活動している。件数は多くないものの、不登校傾向のある生徒や自傷行為のある生徒の保護者との面談を実施した事例があった。

本校は地域柄、心療内科等のある医療機関が近隣に少なく、経済的な困難を抱える家庭は特に、精神的な不調があっても病院受診へとつながりにくい状況にある。そのため、スクールカウンセラーの派遣は本校にとって重要な役割を担っている。発達障がいのある生徒が対人関係の問題から二次的な障がいとして精神的な不調を訴える場合も多く、卒業までを継続して支援を受けた事例も多い。

また今年度は、派遣事業とは別にスクールカウンセラーを講師として招き、年次ごとに1時間ずつ生徒向けの講演会を実施した。「雨の中の自分」の絵を描き、現在のストレス量や、対処方法を探ったり、3人1組で話を聞く練習を行ったりするなど、活動的な内容を盛り込んだ。その他、自分の性格や強みを考える活動や、自分に合ったストレス解消法を学ぶ活動を通して、予防的な教育相談の時間となるように企画した。さらにスクールカウンセラーと全校生徒が一度顔を合わせることで、緊急時などに個別面談につながりやすくなることを期待している。

### 3 おわりに

本校の教育相談の取り組みは、他校と比べて特筆すべき点があるわけではないが、今回記載した内容を年間通して組織的に進めることで、支援が必要な生徒が現れた際に迅速な発見・対応につながるよう努めている。

支援内容については、今後入学してくる生徒の特性や、変化していく生徒を取り巻く環境に応じ、改善を図りながら、教育相談活動を進めていく必要がある。

## 「本校の教育相談について ー令和6年度の取組ー」

北海道登別明日中等教育学校

養護教諭 影山 夏未

### 1 令和6年度の学校概要について

#### (1) 開 校

平成19年4月（開校18年目）

#### (2) 生徒数

443名 前期生（中学生）232名 後期生（高校生）211名

#### (3) 出身市町村別在籍数

登別市、室蘭市、苫小牧市から通学する生徒が多い。（約8割）

#### (4) 寄宿舎設置

48名入舎

### 2 1年間の教育相談の取組

月	4月	5月	6月	7月
内容	・入学生保護者 面談 ・三者面談	・子ども理解支援 ツール「ほっと」 の実施①	・いじめアンケート 調査後の教育 相談	

月	8月	9月	10月	11月
内容		・SOSの出し方 講座	・教育相談週間① ・子育て懇談会 ・子ども理解支援 ツール「ほっと」 の実施②	・いじめアンケート 調査後の教育 相談

月	12月	1月	2月	3月
内容		・教育相談週間② (希望生徒のみ)		

#### (1) 【毎日の取組】

- ア 生徒とのやりとり帳の活用
- イ 端末での健康観察・教育相談

#### (2) 【毎月の取組】

- ア スクールカウンセラーによる面談
- イ 校内サポート委員会の開催
- ウ 月刊誌「学校教育相談」の定期購読

### 3 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施（5、10月）

#### (1) 目的

ア コミュニケーション能力、学校生活への満足度、精神面などについてアンケートを実施し、生徒理解を深め、生徒への対応に活かす。

#### (2) 期日

ア 1回目：5月13日～5月15日

イ 2回目：10月28日～11月1日

#### (3) 実施方法

ア Google フォームにより、生徒が期間内に回答

#### (4) 活用

ア 担当係が集計し、分析結果を学級担任に提供。学級担任等が確認。

イ 必要に応じて学年で面談を実施。

### 4 いじめアンケート調査後の教育相談（6、11月）

#### (1) 目的

ア いじめ被害の実態や、生徒のいじめに対する考え方等を把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応などの指導に役立てる。

#### (2) 期日

ア 1回目：5月10日以降

イ 2回目：11月1日以降

#### (3) 実施方法

ア Google フォームによるいじめアンケート調査実施後、入力内容を確認し、学年団が面談を実施。

イ 必要に応じて生徒指導部による面談を実施。

### 5 SOSの出し方講座（9月）

#### (1) 目的

ア 誰でも悩みがあることを理解し、相談することの効果や大切さを学ぶ。また、相談の仕方などを知る。

#### (2) 期日

ア 9月30日 ※毎年実施

#### (3) 対象

ア 全校生徒

#### (4) 実施方法

ア 担当係が作成したスライド教材を活用し、学級担任が説明、指導。

イ 「つらいときがあること」「ストレス解消法」などを生徒同士で共有。

## 6 教育相談週間（10、1月）

### (1) 目的

ア 予防的教育相談の充実を図るため、心身の諸問題の早期発見に努め、生徒個々の心身の安定や自己解決能力の育成を図る。

### (2) 実施期間

ア 10月15日～10月31日 ※特別日課として放課後に面談時間を確保

### (3) 対象

ア 全校生徒

### (4) 実施方法

ア 1人15分程度、各学年で実施し、面談記録を全体で共有。

イ 学習・進路指導、生徒指導に関わる指導は行わず、生徒が話したいことを受容的な態度で聴く。

## 7 子育て懇談会（10月）

### (1) 目的

ア 保護者を対象に、講師（スクールカウンセラー）から、子育ての悩みへの向き合い方や、保護者同士が悩みを共有し交流する場とする。

### (2) 実施日

ア 10月24日（木） 19時から

### (3) 場所

ア 学校

### (4) 実施方法

ア 事前に参加する保護者から質問や悩みなどを確認。

イ オンライン参加も可。

## 8 【毎日の取組】生徒とのやりとり帳

### (1) 目的

ア 前期生徒（中学生）と学年教員とのコミュニケーションをとる手段として、生徒の困り感や日常生活、学級の様子を把握する。

### (2) 実施方法

ア 1回生（中学1年生相当）は、ノートに記入して毎朝、学級担任に提出。学級担任は、その日のうちに内容を確認し、生徒にノートを返却する。

イ 2回生（中学2年生相当）は、希望者のみ、スプレッドシートに入力し、学年の教員が記載内容を確認。

## 9 【毎日の取組】端末での健康観察・相談

### (1) 目的

ア 端末を活用し、生徒の心や体調の変化を早期発見して、自殺リスクや不登校リスクを把握し、適切な支援につなげる。

(2) 対象

ア 基礎期 1、2 回生（中学 1、2 年生相当）

(3) 実施方法

ア 生徒が毎朝フォームに今日の体調（5 段階）と心の状態（4 段階）などを入力し、管理職、学年団、養護教諭が確認。

イ 気になる生徒には声かけの実施。

**10 【毎月の取組】サポート委員会の開催**

(1) 目的

ア サポートが必要な生徒について情報を共有し、今後の対応（支援）を検討する。

(2) 構成委員

ア 副校長、教頭、主幹教諭、教務部長、生徒指導部長、特別支援コーディネーター、養護教諭、当該年次主任、当該担任など

(3) 開催方法

ア 毎月 1 回、定例開催。

イ 資料として、当該担任がサポートの必要な生徒の状況を「生徒理解・支援シート」に記入して提出・説明。

**11 【その他】校内教育支援センター（不登校生徒への対応）**

(1) 設置場所

ア 生徒玄関から一番近い多目的教室に設置。

イ 1 人分のスペースを衝立で区切り、6 人分のスペースを準備。

(2) 支援内容

ア 座学の教科・科目はオンラインで授業を受け、実技系の教科・科目は自習。

イ 基本、校内教育支援センターに教員は常駐しない。毎朝の登校確認や授業が空いている時に当該学年の教員が様子を見に行くといった対応。

ウ 前期課程の給食時、人混みで給食を食べられない生徒についても多目的教室を食事場所として活用。

**12 【その他】保護者懇談会**

(1) 目的

ア 学年や学級の様子のほか、学年から保護者に周知したいことを説明し、保護者同士の交流を深める。

(2) 実施主体

ア 各学年の P T A 研修係

(3) 実施内容

ア 授業参観（1 時間）後、飲み物を持参し、茶話会のような雰囲気懇談会を実施。

(4) 実施回数

ア 年 2 回程度

## 本校の教育サポート委員会の活動について

北海道帯広農業高等学校

養護教諭 寺嶋 理恵子

### 1 はじめに

本校は、5学科15クラス、全校生徒約560名の農業高校である。農業関係や部活動でメディアに取り上げられることも多く、全国・全道から生徒が入学している学校である。

生徒たちは体力があり、体を動かすことを厭わない半面、言葉で気持ちを表現することが苦手な生徒が多く、生徒のSOSをキャッチするために、さまざまな仕組みを工夫する必要がある。

### 2 本校の教育サポート委員会の構成、目的、重点目標

#### (1) 委員会の構成

本校の教育サポート委員会は、教頭、保健体育部長、養護教諭、生徒指導部1名、教務部1名、各学年担任から1名の計8名で構成されている。

#### (2) 設置の目的

ア 心に悩みを持つ生徒や支援の必要な生徒を早期に発見し、支援方針を検討して担任や学年団を援助する。

イ 職員会議、ケース会議、教科担任会議等で情報を共有し、学校として一貫した支援を行う。

ウ 心に悩みを持つ生徒や支援の必要な生徒に対応するため、教職員の外部研修会の参加を促し、教職員のスキルアップを図る。

エ スクールカウンセラーと連携し、生徒のカウンセリングや教職員を対象とした研修会を実施し、組織のスキルアップを図る。

#### (3) 令和7年度の重点目標

ア 生徒のSOSを早期にキャッチし、迅速な対応を行う。

イ 配慮が必要な生徒について定期的に情報収集を行い、全体への情報発信・共有に努め、関係分掌や学年と連携して支援する。

ウ 生徒の援助希求能力、ストレスへの対応力、コミュニケーション能力の向上のための予防的取組を進める。

### 3 具体的な実践内容

#### (1) 毎月の委員会開催

毎月の定例の委員会は年間行事計画に組み込まれており、計画的に開催している。定例委員会の前に各学年の先生は担任から情報収集を行い、話題にする生徒を明確にするようにしている。また、養護教諭からは、保健室で気になる生徒や保健室登校の生徒の様子、スクールカウンセラーの活用状況などを報告している。その中から、定例の職員

会議において全体に共有する生徒を確認している。

(2) 「生徒情報共有シート」の作成と職員会議での情報共有・検討

本校では、配慮を要する生徒や経過の記録が必要な生徒について、「生徒情報共有シート」という様式で記録を作成し、全体で共有している（末尾資料）。担任や関わった教職員が随時入力し、年度初めや定例の職員会議での情報共有に使用している。

(3) 欠課時数が基準を超えた生徒の特例認定の検討と教務部への申請

定例の委員会や職員会議を通じて情報共有を継続しながら、教育サポート委員会で必要な時点で特例認定の検討を行い、申請様式に必要事項をまとめ、教務部での審議を申請している。教務部での検討および全体の職員会議での審議を経て認定されている。

(4) 教育相談アンケートの実施と教育相談週間の実施

毎月、Google フォームによる教育相談アンケートを全生徒に実施し、相談希望のある生徒と面談を行っている。この方法に変更して3年目となるが、相談希望のある生徒への即日・翌日の面談が可能になっている。

質問項目は次のとおりで、スクールカウンセラーの助言を受け、生徒の回答傾向に応じて毎年少しずつ改訂している。

ア 今日の体調（1～5で回答）

イ 今日の心の天気（晴れ、曇り、雨、雷から選択）

ウ 相談したいことの有無（ある・なしから選択）

エ 相談したい相手（自由記述／ウがあると解答した場合）

オ 学校生活の満足度（1～10で回答）

カ 困っていることや不安なこと（自由記述）

(5) 学校環境適応感尺度「アセス」の実施

1学年の実施については、委員会で実施要領を作成し、ゴールデンウィーク明け、夏休み明け、2～3月の年3回実施している。2・3年生は担任の裁量で実施している。

Google フォームで回答できるようにしたことで、紙の実施より集計作業が早くなり、要支援の生徒や生活満足度の低い生徒への担任による面談に迅速につなげられるようになった。

(6) 合理的配慮を提供する生徒への取組

現在、本校では書字障害などの生徒に対し、ノートパソコンによる板書、資料のデータ提供、ノートのデータでの提出、考査の解答用紙のデータ送信とノートパソコンでの解答など、合理的配慮を提供している。生徒は主に「Goodnotes」というアプリを使用して学習している。

保健体育部長と養護教諭が特別支援教育コーディネーターを務め、読み書きの困難などに対する合理的配慮を提供する生徒について、「個別的教育支援計画」および「個別の指導計画」作成し、評価を行っている。

その生徒に合わせて1年を2～3の期間に区切り、本人・保護者・担任・コーディネーターで面談し、本人・保護者の願いを基に教科担任会議を開催し、各教科での支援内容を明確にして評価を行っている。

また、大学等への進学に際しては、受験上の配慮申請や入学後の合理的配慮の提供依頼を行っている。



(7) スクールカウンセラーの活用

本校では男女1名ずつ、計2名のスクールカウンセラーに年間40時間勤務していただいている。生徒や保護者へのカウンセリング、教職員からの情報収集・提供、家庭訪問、ケース会議への参加と助言、生徒へのストレスマネジメントワーク、校内研修の講師など、それぞれの専門性を生かして活躍していただいている。

(8) ストレスマネジメントのワーク

毎年、1学年全員を対象に、ゴールデンウィーク明けにスクールカウンセラーによるワークを実施している。内容はストレスの学習、漸進性弛緩法、呼吸法などで、4月から緊張が続いていた1年生や教職員にとって心身ともにリラックスできる時間となっている。

(9) 育成寮でのコミュニケーションワークへの協力

本校は寮があり、農業科学科・酪農科学科・食品科学科の1年生は、一定期間入寮することになっている。生徒にとっては大きな環境の変化であるため、互いを理解しあい、新しい友人関係を築き、安心できる居場所を作ることを目的に、入寮初日から寮務部が主体となって年間を通してさまざまなコミュニケーションワークを実施している。ワークは、スクールカウンセラーの助言を受けながら寮務部の担当者が実施している。

(10) 教育サポート委員会フォルダでの情報共有

本校では、配慮が必要な生徒情報（生徒情報共有シート）、個別的教育支援計画・個別の指導計画、参考資料などを共有フォルダにまとめ、必要に応じて教職員が閲覧・入力できるようにしている。

参考資料のフォルダには、不登校、自傷・自殺、ヤングケアラー、児童虐待、特別支援教育、LGBTQなどがまとめられている。

#### 4 おわりに

今年度の初め、新採用で初めて学級担任を持つ先生から「うちの学校は、困ったことがあれば教育サポート委員会に相談できるので安心です」と言われた。委員会にとって、とてもうれしい言葉であった。

生徒のSOSをキャッチし、それを学校全体で共有する仕組みは学校の規模や特性によりさまざまである。教職員が生徒理解や対応で困ったり、気になったりする小さな声や思いを出しやすく、それを汲み取れる精神的風土を学校全体に醸成し、活動をアップデートしていく柔軟さが最も大切だと考え、教育サポート委員会の活動を展開してきた。

生徒たちは、私たちが知らない歴史や思いを抱えて今ここにいる。そのことを常に想像し、今日も生徒の目を見て丁寧に挨拶をかわし、気になる様子があれば通り過ぎず声をかける。

今回紹介した具体的取り組みは、そのような積み重ねが基礎にある。これからも生徒・教職員双方の思いを大切に、本校にとって必要で機能する仕組みや活動の展開に努めていきたい。

生徒情報共有シート【記入例 精神的な疾患】

○年○組    ○○番 氏 名      ○○    ○○○		記載日    令和 7 年 1 0 月 2 5 日 (更新日    令和    年      月      日)
状態・状況 (傷病名)	<p>診断名    適応障害 (とかち精神科クリニック)</p> <p>夏休み明けから登校できなくなり、とかち精神科クリニックを受診し、適応障害と診断され、抑うつ症状が強いため、主治医から約1か月の自宅療養を勧められ、欠席していました。中学校時代は不登校の生徒で、高校に入学してから頑張り過ぎたことが要因と考えています。</p> <p>10月1日から保健室登校を始め、少しずつ学校に登校することに慣れ、心身の状態も改善されてきました。</p> <p>主治医や保護者、本人とも相談し、11月から教室に入ってみることになりました。</p>	
配慮事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本人の状態を見ながら、少しずつ教室にいられる時間を増やしていこうと考えています。</li> <li>2 教室の席を廊下側の一番後ろにします。授業の途中で出入りすることになるかと思いますが、教科担任の先生に合図して出ていきますので、よろしくお願いいたします。</li> <li>3 学習の遅れを心配しています。教科担任の先生は、授業で使用したプリントなどを確実に渡していただいたり、勉強のサポートをお願いします。</li> <li>4 実習は本人の回復にとっても良い影響があると考えますので、教室に行けない時間でもできることがあれば誘ってあげてください。</li> </ol>	
その他	動物がとても好きです。	
状況・様子	日付 記載者	内容
	○月○日 帯農	プリント整理を苦手としている。(順番通りに綴れない、他の教科のプリントを挟んでいる)

令和 7 年度

## 各支部の活動状況

# 令和7年度各支部の活動状況一覧

No.	支部名	事務局校 (会場)	期日	人数	内容
1	空知	栗山 (同校)	9月16日(火)	22	<p>令和7年度 空知高等学校教育相談研究会(北海道高等学校教育相談研究会空知支部)総会・研究会            講演・演題 「学校生活、日常生活で生きづらさを感じている生徒への対応            ～発達障害への理解とその支援から再考する」            ・講師 日本医療大学 総合福祉学部ソーシャルワーク学科 助教 橋本 達志 氏            実践発表・標 題 「専門高校における教育相談について～現状と課題～」            ・提言者 北海道新十津川農業高等学校 教諭 本田 隆幸 氏            研究協議 ・各校の教育相談体制 ・生徒情報の把握-共有方法            ・生徒が話しやすくなる工夫や組織的な対応 ・各校の課題            ・助言者 北海道教育庁空知教育局教育支援課学校教育指導班 指導主事 吉田 あゆみ 氏</p>
2	後志	岩内 (同校)	10月17日(金)	15	<p>令和7年度 第42回後志管内高等学校教育相談研究会総会・研究協議会            実践交流 ・各校の教育相談の具体的な取組について            ・困り感を抱えている生徒への指導支援の一例について など            講演・演題 「授業・LHR・部活動などですぐに使えるレジリエンスup!            ～実際の指導案やパワーポイントなどをご紹介します～」            ・講師 北海道札幌西陵高等学校 指導実習助手 木村 幸恵 氏</p>
3	胆振	苫小牧総合経済 (同校)	11月5日(水)	23	<p>令和7年度 胆振管内高等学校教育相談部会総会及び第1回研究協議会            講演・演題 「高校生における児童虐待の実情について」            ・講師 北海道室蘭児童相談所 所長 板橋 潔 氏</p>
4	日高	平取 (同校)	11月21日(金)	10	<p>令和7年度 日高管内高等学校教育研究会教育相談部会            講演・演題 「いじめ対応ガイドブック・支援ツールコンパスの活用について」            ・講師 北海道立教育研究所人材育成部 主任研究研修主事 眞野 春香 氏            研究協議 ・スクールカウンセラーの活用について ・テストバッテリーの活用について            ・オンライン授業の実施状況について ・不登校生徒への対応について など</p>
5	道南	森 (同校)	6月24日(火) 10月23日(木)	26 22	<p>令和7年度 渡島・檜山管内高等学校教育相談研究会総会及び第1回研究協議会            講演・演題 「教育+αの視点で理解する生徒の心」            ・講師 函館短期大学 非常勤講師 関崎 聖子 氏            北海道公立学校SC(公認心理師)            令和7年度 渡島・檜山管内高等学校教育相談研究会第2回研究協議会            講演・演題 「高校現場での虐待対応の実践と施設入所等について」            ・講師 北海道立大沼学園 自立支援課課長 鈴木 尚正 氏</p>
6	上川	旭川永嶺 (大雪クリスタルホール)	7月16日(水)	35	<p>令和7年度 上川管内高等学校教育相談研究会教育相談部会総会・研究協議会            研究協議 ・生徒の個別理解に向けて ～生徒の指導上の課題から～            ・助言者 北海道教育庁上川教育局教育支援課 学校教育指導班 指導主事 荒 嘉律 氏</p>
7	留萌	遠別農業 (同校)	9月19日(金)	5	<p>留萌管内高等学校教育相談研究会総会および研究協議会            講演・演題 「教育相談の効果的な手法について」            ・講師 北海道立教育研究所 主任研究研修主事 眞野 春香 氏            研究研修主事 土居 早苗 氏</p>
8	宗谷	利尻 (稚内高校)	10月27日(月)	11	<p>令和7年度 宗谷管内高等学校教育研究会教育相談部会研究協議会            講演・演題 「生徒指導に係る諸課題～不登校生徒の支援を中心に～」            ・講師 北海道立教育研究所人材育成部 研究研修主事 増田 功 氏            研究発表・演題 「特別な配慮を必要とする生徒への個別支援の実践」            ・発表者 北海道浜頓別高等学校 養護教諭 柳 夏鈴 氏            研究協議 ・教育相談に係る課題についての検討・グループ交流            ・助言者 北海道立教育研究所人材育成部 研究研修主事 増田 功 氏</p>
9	オホーツク	雄武 (町民センター)	11月21日(金)	30	<p>令和7年度 第43回オホーツク管内高等学校教育相談研究会総会・研究大会            講演・演題 「教育活動に生かすオランダ流コーチングの紹介と実践」            ・講師 北海高等学校 教諭 西村 昂介 氏            研究協議 ・網走南ヶ丘高校定時制における教育相談の取組について            ・網走桂陽高校における教育相談の取組について</p>
10	十勝	帯広農業 (同校)	11月27日(木)	46	<p>令和7年度(2025年度) 十勝管内高等学校教育研究会教育相談部会幹事会・総会並びに研究協議会            講演・演題 「児童生徒の自殺を防ぐために ～学校現場に求められる視点と対応～」            ・講師 北星学園大学 社会福祉学部 心理学科 専任講師 高橋 あすみ 氏            研究協議 ・各校の教育相談体制と取り組みについて</p>
11	釧路	釧路北陽 (同校)	10月23日(木)	29	<p>令和7年度 第45回釧路管内高等学校教育研究会教育相談部会総会・研究協議会            講演・演題 「希死念慮、自傷行為のある生徒への対応について」            ・講師 北海道立精神保健福祉センター 所長 岡崎 大介 氏            実践発表・演題 「タブレットを使った教育相談アンケート」            ・提言者 北海道釧路工業高等学校 教諭 本岡 保博 氏            ・演題 「教育相談における支援と連携について」            ・提言者 北海道弟子屈高等学校 養護教諭 宮本 琴音 氏            研究協議 ・定期考査等における合理的配慮について            ・不登校の生徒に対する対応について</p>
12	根室	中標津農業 (同校)	11月28日(金)	5	<p>令和7年度 根室管内高等学校教育研究会教育相談連絡協議会            研究協議 ・各学校の教育相談の現状と課題について            ・助言者 北海道教育庁根室教育局教育支援課            高等学校教育指導班 指導主事 田村 優介 氏</p>

# 北海道高等学校教育相談研究会

組 織  
及 び  
規 約

令和7年度 北海道高等学校教育相談研究会 役員・事務局

役職	氏名	所属学校	職名	担当部
会長	渡 辺 晃 史	札幌白石	校長	
副会長	汐 川 裕 彦	釧路東	校長	総務部
	三 上 英 一	美瑛	校長	研修部
常任理事	與 田 顕 規	網走南ヶ丘	校長	広報部
	我孫子 達 也	札幌南	副校長	総務部
	中 條 尚 志	札幌稲雲	教頭	研修部
	沼 澤 圭 亮	帯広三条	教頭	広報部
	早 崎 志 保	上磯	教頭	総務部
	佐 藤 麻 美	旭川農業	教頭	研修部
理事	各支部事務局校長			
常任幹事	深 澤 昌 弘	北海道科学大学	教諭	総務部
	齋 藤 利 一	北海道科学大学	教諭	総務部
幹事	金 子 正 二	七飯	教諭	研修部
	小 田 聖 人	遠軽	教諭	研修部
	前 川 護	苫小牧東	教諭	研修部
	堀 川 智 恵	札幌東	養護教諭	広報部
	土清水 賢 一	江別	教諭	研修部
	尾 山 真 悟	砂川	教諭	広報部
	須 頭 潤 美	札幌あいの里高等支援	教諭	総務部
	畠 山 尚 大	恵庭南	教諭	総務部
	岩 瀬 由 枝	遠軽	教諭	総務部
事務局長	奥 田 尚	札幌東商業	教諭	総務部
事務局次長	坂 本 佳 子	夕張	教諭	総務部
	加 賀 陽 子	札幌啓成	養護教諭	研修部
	小山内 由 佳	札幌創成	教諭	広報部
事務局員	黒 木 真	札幌啓成	教諭	総務部
	中 山 靖 志	札幌白石	教諭	研修部
	道 浦 陽 子	札幌南	教諭	研修部
	名古屋 大 輔	函館工業	教諭	広報部
	本 田 明友美	小樽未来創造	養護教諭	総務部
	松 浦 新	芦別	教諭	広報部
	山 田 盛 雄	北海道芸術	カウンセラー	総務部
	菅 原 愛 莉	追分	養護教諭	広報部
	兒 玉 亜 希	野幌	養護教諭	研修部
	林 宏 幸	札幌南	教諭	研修部
	古 川 泰 弘	札幌工業	教諭	総務部
	古 木 憲 吾	新篠津高等養護	教諭	研修部
	竹 内 美 緒	札幌高等養護	養護教諭	研修部
	立 花 千 恵	中標津農業	教諭	広報部
	横 山 博 子	石狩南	養護教諭	総務部
	平 口 莉 菜	札幌西（定）	教諭	広報部
	古 瀬 あかり	千歳北陽	養護教諭	研修部
	兒 玉 沙 綾	小樽水産	養護教諭	総務部

令和 7 年度 北海道高等学校教育相談研究会 支部事務局校

支部	学校名	理事	事務局長	住所、電話・FAX 番号
空知	北海道栗山高等学校	校長 さかのうえ だいすけ 坂上 大介	養護教諭 すがわら まりこ 菅原 麻里子	〒069-1522 夕張郡栗山町字中里64番地18 ☎0123-72-1343 FAX 0123-72-1073
後志	北海道岩内高等学校	校長 いちおか のりかず 一岡 憲和	教諭 ふくみつ りょう 福光 亮	〒045-0012 岩内郡岩内町宮園43番地1 ☎0135-62-1445 FAX 0135-62-1447
胆振	北海道苫小牧総合経済高等学校	校長 しませ のぶしげ 島瀬 展成	教諭 よしおか たかひろ 吉岡 孝洋	〒053-0052 苫小牧市新開町4丁目7番2号 ☎0144-55-9264 FAX 0144-55-9263
日高	北海道平取高等学校	校長 みつはし たかおみ 三橋 孝臣	教諭 かいで ちはる 貝出 千春	〒055-0107 沙流郡平取町本町109番地2 ☎01457-2-2709 FAX 01457-2-2849
道南	北海道森高等学校	校長 たていし やすし 楯石 保史	教頭 わきざわ じゅんいち 脇澤 潤一	〒049-2394 茅部郡森町字上台町326番地48 ☎01374-2-2059 FAX 01374-2-2298
上川	北海道旭川永嶺高等学校	校長 たかくら ともえ 高倉 友恵	教諭 なす めぐみ 那須 めぐみ	〒079-8508 旭川市永山町3丁目102番地 ☎0166-47-6006 FAX 0166-47-6109
留萌	北海道遠別農業高等学校	校長 たけだ みきひろ 武田 幹弘	教諭 いまい ゆきひろ 今井 進裕	〒098-3541 天塩郡遠別町字北浜74番地 ☎01632-7-2551 FAX 01632-7-2376
宗谷	北海道利尻高等学校	校長 とりげ こうじ 鳥毛 浩二	養護教諭 はやし すみれ 林 寿実玲	〒097-0401 利尻郡利尻町杵形字神居189番地1 ☎0163-84-3325 FAX 0163-84-2215
オホーツク	北海道雄武高等学校	校長 とみた しんや 富田 真哉	教頭 ひらの あつし 平野 厚史	〒098-1702 紋別郡雄武町字雄武1495番地 ☎0158-84-2956 FAX 0158-84-2956
十勝	北海道帯広農業高等学校	校長 さとう ゆうじ 佐藤 裕二	教諭 たけひさ なおき 竹久 尚輝	〒080-0834 帯広市稲田町西1線9番地 ☎0155-48-3051 FAX 0155-48-3052
釧路	北海道釧路北陽高等学校	校長 すずき りょうすけ 鈴木 亮介	教諭 かめや おりえ 亀谷 おりえ	〒085-0814 釧路市緑ヶ岡1丁目11番8号 ☎0154-41-4401 FAX 0154-41-0344
根室	北海道中標津農業高等学校	校長 なかにし きよし 中西 聖	教諭 しらはた とむら 白幡 十夢良	〒088-2682 標津郡中標津町計根別南2条西1丁目1番地1 ☎0153-78-2053 FAX 0153-78-2465



# 北海道高等学校教育相談研究会規約

## (名 称)

第1条 本会は北海道高等学校教育相談研究会（略して、道高相研）と称する。

## (事務局)

第2条 本会を次の所在地に置く。本会の事務局は、事務局長の勤務校とする。

## (目 的)

第3条 本会は北海道の高等学校における教育相談についての研究を行い、併せて学校教育相談活動の向上並びに普及を図ることを目的とする。

## (事 業)

第4条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究大会、研究協議会を開催する。
- (2) 研究集録、会報を発行する。
- (3) その他、本会の目的を達成するために必要な活動を行う。

## (会 員)

第5条 本会は次の者をもって構成する。

- (1) 北海道の高等学校に勤務する教職員で学校教育相談を研究しようとする者
- (2) 本会の趣旨に賛同する個人又は団体で、常任理事会の承認を得た者

## (支 部)

第6条 本会の支部組織を次のとおりとする。

- (1) 本会に次の支部を置く。

空知 後志 胆振 日高 道南 上川 留萌 宗谷  
オホーツク 十勝 釧路 根室

- (2) 支部活動の推進と道高相研との円滑な連携を図るため支部に事務局を置く。

## (役 員)

第7条 本会に次の役員を置く。

会 長	1 名	副 会 長	2 名
常任理事	若干名	理 事	1 2 名
常任幹事	若干名	幹 事	若干名
事務局長	1 名	事務局次長	3 名
		事務局員	若干名

## (役員の選出)

第8条 役員の選出は次のように行う。

- (1) 会長、副会長、監事は総会で選出する。
- (2) 常任理事、常任幹事、幹事、事務局長、事務局次長及び事務局員は会長が委嘱する。
- (3) 理事は支部事務局校の校長がその任に当たる。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は次のとおりとする。

- (1) 会長は本会を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。
- (3) 常任幹事は会務の執行を監査する。
- (4) 常任理事、常任幹事、幹事、事務局長、事務局次長及び事務局員は会の運営に必要な事務を分掌する。
- (5) 理事は本会の事業の推進について審議する。

(役員の仕事)

第10条 役員の仕事は理事を除き総会開催月を起点に1年とする。ただし再任は妨げない。

(総 会)

第11条 総会は本会の最高議決機関とする。

- (1) 毎年1回会長がこれを招集し、活動の報告及び決算の承認、役員の選出、予算の議決、会則の改廃、その他必要事項を審議し、決定する。
- (2) 総会の議決・承認は、出席者の過半数の同意を必要とする。

(会 議)

第12条 本会を運営するために、次の会議を開催する。

- (1) 理事会は必要に応じて開催する。
- (2) 幹事会は必要に応じて開催する。
- (3) 事務局会は会務の処理に応じて開催する。
- (4) 会の議決・承認は出席者の過半数の同意を必要とする。

(会 計)

第13条 本会の会計は、会費・研究大会参加費・寄付金その他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、4月1日から3月31日までの期間とする。

(補 則)

第15条 本会の運営に当たって必要な細則を別に定めることができる。

(付 則)

この規約は、昭和60年1月12日から施行する。

平成11年4月 1日	一部改正	平成27年6月26日	一部改正
平成13年6月 8日	一部改正	平成29年6月23日	一部改正
平成16年6月15日	一部改正	令和元年6月17日	一部改正
平成19年6月15日	一部改正	令和4年7月 1日	一部改正
平成20年6月16日	一部改正		
平成23年6月17日	一部改正		
平成24年6月29日	一部改正		
平成25年6月21日	一部改正		
平成26年6月20日	一部改正		

道 高 相 研 の あ ゆ み

回	年 月 日	研 修 内 容	参加人数
1	48. 1. 8	○講演 「学校教育相談の考え方」 空知教育局主幹 ○高校部会の発足に関する協議（地区理事の実情報告も含む）	92
2	49. 1. 11	○講演 「精神衛生について」 北海道大学教授 ○演習 「調査・検査の実施方法とその活用（YG検査中心）」 道立教育研究所	124
3	50. 1. 11	○講演 「青年期の精神衛生について」 道立精神衛生センター所長 ○演習 「クレベリン検査」 内田クレベリン精神検査研究会長	143
4	51. 1. 11	○講演 「高校生の生活指導について」 北海道中央児童相談所長 ○演習 「内田クレベリン精神検査と活用」 内田クレベリン精神検査研究会長	127
5	52. 1. 11	○講演 「高校生の非行について」 札幌家庭裁判所調査官 ○演習 「親子関係診断テストの理解と活用」 道立教育研究所主任研究員	134
6	53. 1. 11	○講演 「教育環境における病理現象の中から」 北海道教育委員会 前委員長 ○演習 「テストバATTERYからみた生徒理解=A・A・I」 道立教育研究所主任研究員	94
7	54. 1. 11	○講演 「精神衛生と現代の若者」 道立衛生センター研究調査部長 ○演習 FMT「学級適応診断調査」 道立教育研究所主任研究員	115
8	55. 1. 10	○講演 1「非行事例に見る青少年の横顔」 札幌東警察署巡查部長 ○講演 2「非行の実態とその指導の実際」 札幌家庭裁判所主席調査官 ○演習 「MG検査とその活用」 応用研究所次長	135
9	56. 1. 10	○講演 「生徒指導の原点を見つめて」 道立教育研究所長 ○演習 「YG検査の診断的な読み取りについて」 道立教育研究所主任研究員 ○実践発表 「生徒指導とYG活用の実際」 北海道興部高等学校	182
10	57. 1. 9	○講演 「青少年の現状と課題」 北海道家庭学校長 ○演習 「親子関係診断テストの診断的読み取り」 北海学園北見大学教授 ○実践発表 「教師としての私の課題」 北海道奈井江商業高等学校教諭	178
11	58. 1. 14	○講演 「高校教育の将来展望」 北海道教育委員会学校教育部高等学校課 ○演習 「カウンセリングと人間性」 北海道教育委員会空知教育局指導主事 ○実践発表 「調査・検査の活用と生徒指導」 北海道立教育研究所相談室長	162
12	59. 1. 13	○講演 「学校教育相談の今日的課題」 東京理科大学教授 哲学博士 ○講義Ⅰ「高校生の抱えている問題行動と教育相談」 北海道教育庁学校教育部高等学校課主査 ○講義Ⅱ「荒れる生徒の背景と教育相談」 札幌市教育研究所教育相談研究員	209
13	60. 1. 13	○講演 「生徒の自己実現を目指す学校教育相談」 千葉商科大学教授 ○講義Ⅰ「予防的・開発的学校教育相談」 北海道教育庁学校教育部指導参事 ○講義Ⅱ「問題行動の背景と教育相談」 札幌太田病院院長	235
14	61. 1. 11	○講演 「学校教育相談は、いま何を求められているか」 宇都宮大学教授 教育学博士 ○講義Ⅰ「内観法による子どもの変容」 内観道場々主 ○講義Ⅱ「健全な心を育てる学校教育相談」 北海道教育相談研究会会長（北海道厚別高等学校校長）	186

15	62. 1. 10	○講演 「いまこそ心の絆が大切なとき」―思春期挫折症候群を追って― 筑波大学助教授 医学博士 ○講義Ⅰ「学校体制と教育相談」 元北海道札幌東陵高等学校長 ○講義Ⅱ「高等学校教育の今日的課題」 北海道教育庁学校教育部高等学校課課長補佐	稲 村 博 氏 大 橋 實 氏 武 田 哲 氏	189
16	63. 1. 9	○講演 「今日のな学校教育相談の在り方」 筑波大学名誉教授 新潟日赤看護大学教授 ○講義 「生徒指導と性格検査そのⅠ」(前半) 「生徒指導と性格検査そのⅠ」(後半) (財) 応用教育研究所研究係長	山 内 喜久雄 氏 小太刀 和 雄 氏	220
17	平成 1. 1. 12	○講演 「学校現場で教育相談をどう活用するか」 ―精神分析的な見方からの教育相談のポイント― 横浜国立大学教授 ○講義Ⅰ「教育相談における性格検査について」―生徒指導の客観性について― (財) 応用教育研究所研究部長 ○講義Ⅱ「教育相談アラカルト」―学校教育相談における多面性について― 北海学園北見大学教授	小 川 捷 之 氏 田 中 武 平 氏 落 合 信 孝 氏	172
18	2. 1. 11	○講演 「心の成長―教育相談的なものの見方」 東京大学助教授 ○講義 「精神医学から見た青年期の心理」 北海道立精神保健センター相談部長	近 藤 邦 夫 氏 黒 川 新 二 氏	158
19	3. 1. 11	○講演 「学校教育相談の現状と今後の課題」 早稲田大学教授 ○演習 「個別カウンセリング」 北海道札幌開成高等学校教頭 「グループカウンセリング」 道立教育研究所教育相談室室長 「ロールプレイング」 道立教育研究所教育相談室研究員 「グループエンカウンター」 札幌市教育研究所教育相談室所員	小 泉 英 二 氏 武 田 泰 明 氏 松 本 征 八 氏 川 村 道 夫 氏 宮 森 正 勝 氏	180
20	4. 1. 11	○講演 「現今の高校教育に応える学校教育相談のあり方」 文教大学教育学部教授 ○演習 「事例研究」 北海道立精神保健センター相談部副部長 「グループカウンセリング」 北海道札幌開成高等学校教頭 「ロールプレイング」 道立教育研究所教育相談研究室長 「グループエンカウンター」 道立教育研究所教育指導研究部副部長	高 橋 哲 夫 氏 武 田 泰 明 氏 川 村 道 夫 氏 中 野 武 房 氏	160
21	5. 1. 9	○講演 「自ら学ぶ意欲と学校教育相談」 奈良教育大学助教授 ○研修講座 1 「学校の今日的課題に対応する学校教育相談」 北海道教育大学教授 2 「登校拒否（不登校）の問題に対応する教育相談」 札幌太田病院長 3 「エイズや心身の健康問題に対応する学校教育相談」 北海道立精神保健センター所長	桜 井 茂 男 氏 奥 村 晶 子 氏 太 田 耕 平 氏 遠 藤 雅 之 氏	150
22	6. 1. 14	○講演 「無気力の心理と教育相談」 筑波大学教授 ○研修講座 1 「教育相談の実践上の問題とその対応について」 北海道教育大学教授 2 「事例研究について」 道立教育研究所教育指導研究部副部長 3 「家族療法について」 北海道大学医療技術短期大学部助教授	高 野 清 純 氏 奥 村 晶 子 氏 川 村 道 夫 氏 安 達 克 己 氏	154
23	7. 1. 13	○講演 「教師のための学校カウンセリングについて」 日本赤十字看護大学助教授 ○研修講座 1 「思春期の心とからだ」 札幌センチュリー病院内科部長 2 「家族療法の理論と実際」 道立健康センター相談部副部長 3 「学校教育相談の体験実習」 道立教育研究所教育指導研究部副部長	小 玉 正 博 氏 梶 巖 氏 金 田 迪 代 氏 川 村 道 夫 氏	240

24	8. 1. 12	<p>○講演 「不登校の生徒へのかかわり方について」 開善塾教育相談研究所長 金澤純三氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「学校教育相談の新しい地平を求めて」 〈私の15年間の研究と実践の総括として〉 東京都立足立西高等学校教諭 大野精一氏</p> <p>2 「思春期の心の病」―臨床心理的アプローチを通して― 札幌医科大学小児科カウンセラー 市川啓子氏</p> <p>3 「不登校の事例検討会」 開善塾教育相談研究所長 金澤純三氏</p> <p>4 「父母との相談」 〈日本学校教育相談学会副会長、北海道支部長〉 北海学園北見大学助教授 中野武房氏</p>	350
25	9. 1. 10	<p>○講演 「不登校・いじめと人間教育について」 地球市民会議代表 小田全宏氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「不登校等の関わり方」―精神医学からみた不登校― 市立札幌病院静療院児童部副院長 田中哲氏</p> <p>2 「思春期の心の病」―臨床心理的アプローチを通して― 札幌医科大学小児科カウンセラー 市川啓子氏</p> <p>3 「不登校の事例検討会」 発表者 北海道由仁商業高等学校養護教諭 後藤芳江氏 助言者 北海道遠軽郁陵高等学校長 川村道夫氏</p> <p>4 「父母との相談」 助言者 北海道札幌稲雲高等学校長 谷川幸雄氏</p>	310
26	10. 1. 9	<p>○講演 「いじめ・不登校を克服し、子どもの命を救う 感性を活かすホリスティック教育について」 明星大学教授 高橋史朗氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「不登校等の関わり方について」―医者から見た不登校とその事例について― 札幌明和病院院長 奥瀬哲氏</p> <p>2 「学校のカウンセリングの在り方について」 ―スクールカウンセラーから見た事例と対応について― 札幌カウンセリングセンター所長 豊島眞氏</p> <p>3 「現代型問題行動について」 ―いじめや少年非行などの事例とその対応― 帯広少年院主席専門官 酒井修氏</p> <p>4 「インシデント・プロセスを用いた事例研究について」 北海道遠軽郁陵高等学校長 川村道夫氏 発表者 北海道遠軽郁陵高等学校教諭 杉山典行氏</p> <p>5 「カウンセリング・マインドを持った父母の対応」 ～不登校等に関わる父母の在り方について～ ホノルル大学オリエント北海道応用心理学教室室長 戸沼文子氏</p>	390
27	11. 1. 14	<p>○講演 「登校拒否の事例とその対応について」 開善塾教育相談研究所長 金澤純三氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「拒食症や過食症などの神経症についての関わり方について」 ―児童精神科医から見た神経症などの事例とその対応について― 市立札幌病院 設楽雅代氏</p> <p>2 「登校拒否の生徒に対する具体的な対応について」 ―登校拒否生徒や父母の悩みとその関わり方について― 北海道家庭生活総合カウンセリングセンター理事長 善養寺圭子氏</p> <p>3 「カウンセリングの実際とその在り方について」 ―箱庭療法など、カウンセリングの手法や技術について― ホノルル大学オリエント北海道応用心理学教室室長 戸沼文子氏</p> <p>4 「ロールプレイングを活用した教育相談の実際について」 ―カウンセリングに活かすロールプレイングの技術について― 北海道立教育研究所生徒指導・性教育研究室長 川口洋石氏</p> <p>5 「学校でのカウンセリングの在り方について」 ―スクールカウンセラーから見た事例と対応について― 臨床心理士・スクールカウンセラー 門脇いずみ氏</p> <p>6 「教育相談シンポジウム」 ―教育相談や現代的問題行動などの生徒指導についてのシンポジウム― 北海道立教育研究所教育指導研究部長 川村道夫氏 コーディネーター 北海道野幌高等学校教諭 石塚耕一氏 パネラー 北海道札幌拓北高等学校教諭 土田幹男氏 パネラー 北海道羽幌高等学校教諭 森一生氏</p>	400
28	12. 1. 15	<p>○講演 「現代の若者の問題行動を、どうとらえるか」 愛知みずほ大学教員 白石秀人氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「学級担任がすすめる教育相談」 北海道女子大学短期大学部教授 山谷敬三郎氏</p> <p>2 「ロール・プレイングの実際」 北海道立教育研究所生徒指導・性教育研究室長 川口洋石氏</p> <p>3 「不登校生徒と家庭の在り方」 発表者 北海道野幌高等学校教諭 荒谷豊明氏 助言者 愛知みずほ大学教員 白石秀人氏</p> <p>4 「思春期の子供の心理と、その対応」 桜台病院副院長 梶巖氏</p> <p>5 「電話相談の実情とかかえる問題」 北海道立教育研究所電話教育相談員 小野島勇氏</p>	388

29	13. 1. 12	<p>○講演 「問題行動への教育相談的支援」 東京学芸大学教育学部教授 江 川 玖 成 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「聴く」と「聞く」～カウンセリングの基礎と先端～ 北星学園大学教授 相 場 幸 子 氏</p> <p>2 「児童理解に生かすロール・プレイングの実際」 北海道立教育研究所生徒指導・性教育研究室長 川 口 洋 石 氏</p> <p>3 「不適切の予防・正しさの学修」～不登校・いじめの対応 北海道医療大学助教授 阿 部 一 男 氏</p> <p>4 「人間教育の基礎としての個人とコミュニケーションについて」 札幌東豊病院医師 金 上 宣 夫 氏</p> <p>5 「家族援助」～家族内コミュニケーションを考える～ 北海道医療大学教授 金 田 迪 代 氏</p>	396
30	14. 1. 11	<p>○講演 「事例でみる発達と臨床～カウンセリングの現場から」 東京成徳大学大学院教授 杉 原 一 昭 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「学校における相談活動～スクールカウンセラーの立場から」 札幌学院大学人文学部助教授 徳 田 仁 子 氏</p> <p>2 「不登校への理解と対応」 発表者 北海道札幌平岡高等学校教諭 金 子 真 実 氏 助言者 北海道立精神保健福祉センター指導部長 田 辺 等 氏</p> <p>3 「ストレスと教育相談」 くぼメンタルクリニック院長 久 保 義 彦 氏</p> <p>4 「教育相談を生かした授業～エンカウンターを用いた心の教育」 青森明の里短期大学助教授 大 友 秀 人 氏</p> <p>5 「教育相談と危機介入」 日本学校教育相談学会認定カウンセラー 福 原 泉 氏</p>	403
31	15. 1. 10	<p>○講演 「心を育てるカウンセリング」 千葉大学教育学部助教授 諸 富 祥 彦 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「相談活動の進め方・考え方～相談室づくり～」 発表者 北海道清水高等学校教諭 正 村 琢 磨 氏 助言者 北海道苫小牧東高等学校教頭 細 野 敏 氏</p> <p>2 「カウンセリングの基本～子供の心を理解するために～」 道都大学経営学部専任講師 小 澤 康 司 氏</p> <p>3 「育てるカウンセリングー構成的グループエンカウンターの理論と実際ー」 浅井学園大学人間福祉学部福祉心理学科教授 佐 藤 至 英 氏</p> <p>4 「不登校と教育相談」 発表者 旭川市立旭川広陵中学校教諭 松 原 雅 人 氏 北海道羽幌高等学校教諭 神 原 秀 紀 氏</p> <p>コーディネーター 北海道立教育研究所 斉 藤 房 生 氏 生徒指導・教育相談部副部長</p> <p>5 「思春期の心」 大通公園メンタルクリニック院長 山 田 秀 世 氏</p>	415
32	16. 1. 9	<p>○講演 「生徒理解の本質とはー不登校などへの対応をめぐる」 横浜国立大学教育人間科学部教授 岡 田 守 弘 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「校務分掌としての教育相談部の在り方」 発表者 北海道野幌高等学校教諭 荒 谷 豊 明 氏 助言者 北海道札幌北高等学校教諭 玉 田 茂 喜 氏</p> <p>2 「心の問題を持つ子どもに教師としてどう関わるか」 市立旭川病院小児科医師 小 西 貴 幸 氏</p> <p>3 「学校教育におけるピア・サポート活動の意義と実際」 北海道浅井学園大学人間福祉学部教授 中 出 佳 操 氏</p> <p>4 「育てる教育的カウンセリングの勧め」 北海学園大学北見大学商学部教授 中 野 武 房 氏</p> <p>5 「グループ・エンカウンターのすすめ」 北海道弟子屈高等学校教頭 川 口 洋 石 氏</p>	343
33	17. 1. 14	<p>○講演 「児童生徒の不応問題の新しい視点：最近の進歩とそこから学ぶこと」 北海道医療大学心理科学部教授 坂 野 雄 二 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「LD, ADHDの理解と校内支援体制作り」 発表者 北海道岩内高等学校教諭 升 田 重 樹 氏 助言者 北海道札幌北高等学校教諭 玉 田 茂 喜 氏</p> <p>2 「解決志向ブリーフセラピーその考え方と相談方法」 札幌国際大学人文学部助教授 鈴 木 義 也 氏</p> <p>3 「心的外傷を負った生徒への理解と支援」 北海道教育大学付属教育実践総合センター助教授 佐 藤 由 佳 利 氏</p> <p>4 「不登校の理解と支援」 北海道医療大学助教授心理科学部助教授 阿 部 一 男 氏</p>	394



34	18. 1. 13	<p>○講演「即興劇で考えるいじめ・不登校」</p> <p>栃木県教育研究所相談部長</p> <p>丸 山 隆 氏 と 丸山一座</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「発達障害を持つ生徒と他生徒のかかわり」</p> <p>発表者 北海道札幌南高等学校教諭 澤 田 展 人 氏</p> <p>助言者 北海道札幌月寒高等学校教頭 小 路 修 司 氏</p> <p>2 「学校教育相談活動とスクールカウンセラーとのかかわり」</p> <p>浅井学園大学短期大学部部長人間総合学科長教授 谷 川 幸 雄 氏</p> <p>3 「アサーション・トレーニングの実践」</p> <p>札幌国際大学人文学部心理学科助教授 鈴 木 義 也 氏</p> <p>4 「朝寝坊の子供たちー若者に多い睡眠覚醒スケジュール障害」</p> <p>ウェルネス望洋台睡眠クリニック院長 藤 田 雅 彦 氏</p> <p>5 「不登校生徒と親とのかかわり方」</p> <p>開善塾教育相談研究所相談室長 藤 崎 育 子 氏</p>	430
35	19. 1. 12	<p>○講演「教師が取り組む不登校」</p> <p>山形県立上山高等養護学校長</p> <p>花 輪 敏 男 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「メール相談の実践」</p> <p>発表者 北海道札幌国際情報高等学校教諭 小 林 勝 巳 氏</p> <p>助言者 北海道旭川東栄高等学校教諭 福 原 泉 氏</p> <p>2 「軽度発達障害のある生徒の理解と対応」</p> <p>山形県立上山高等養護学校長 花 輪 敏 男 氏</p> <p>3 「リラクセーション・トレーニング ー心と体を癒す方法ー」</p> <p>札幌心の相談センター所長 安 住 昌 泰 氏</p> <p>4 「思春期のうつ病ーその心に何が起きているのか？ー」</p> <p>北海道大学大学院医学研究科精神医学分野助教授 傳 田 健 三 氏</p> <p>5 「事例検討会 ー生徒が不登校になった時ー」</p> <p>スーパーバイザー 開善塾教育相談研究所相談室長 藤 崎 育 子 氏</p>	470
36	20. 1. 11	<p>○講演「家庭訪問と体験活動を活かし学校復帰」</p> <p>開善塾教育相談研究所 所長</p> <p>金 澤 純 三 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「発達障害について」</p> <p>山形県立上山高等養護学校長 花 輪 敏 男 氏</p> <p>2 「高校教育に活かすコーチング」</p> <p>日本コーチ協会 童夢教育研究所 代表 宮 崎 順 一 氏</p> <p>3 「生き方を教える構成的グループエンカウンター（SGE）と心理教育」</p> <p>函館大学 専任講師 金 山 健 一 氏</p> <p>4 「思春期をうまく乗り越えるための支援 ー性的健康を考えるピアサポートー」</p> <p>札幌医科大学保健医療学部看護学科 准教授 杉 山 厚 子 氏</p> <p>5 「教育相談における本校の実践報告とこれからの課題」</p> <p>発表者 北海道共和高等学校 教諭 目 谷 信 靖 氏</p> <p>発表者 北海道中標津高等学校 教諭 野 田 周 平 氏</p> <p>助 言 北海道札幌東高等学校 教頭 本 間 茂 裕 氏</p>	440
37	21. 1. 9	<p>○講演「私をたすけてー即興劇で考える家族の問題ー」</p> <p>栃木県教育研究所教育相談部長</p> <p>丸 山 隆 氏 と 丸山一座</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「高校教育に活かすコーチング」</p> <p>日本コーチ協会 童夢教育研究所 代表 宮 崎 順 一 氏</p> <p>2 「学校の中で苦戦している生徒の理解と支援 ー発達障害の視点からー」</p> <p>名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科 准教授 北 村 博 幸 氏</p> <p>3 「メンタルヘルスの為のリラクセーション ー心と体を癒すためにー」</p> <p>札幌心の相談センター 所長 安 住 昌 泰 氏</p> <p>4 「少年犯罪・少年非行に寄与する教育相談を考える」</p> <p>北翔大学人間福祉学部福祉心理学科 講師 飯 田 昭 人 氏</p> <p>5 「教室復帰へ ー札幌東高校教育相談室登校の取り組みー」・「情報交換」</p> <p>発表者 北海道札幌東高等学校 教諭 鶴 喰 優 氏</p> <p>スーパーバイザー 開善塾教育相談研究所所長 金 澤 純 三 氏</p>	441
38	22. 1. 8	<p>○講演「不登校・ひきこもり問題と訪問指導の実践」</p> <p>開善塾教育相談研究所 相談部長</p> <p>藤 崎 育 子 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「高等学校における特別支援教育」ー発達障害と教育相談ー</p> <p>山形県立山形豊学校長 花 輪 敏 男 氏</p> <p>2 「道研の教育相談から見える『いま』の高校生」</p> <p>北海道立教育研究所・相談部 研究研修主事 池 下 美由紀 氏</p> <p>3 「SST (Social Skills Training ) の概要および活用法」ー入門編ー</p> <p>北翔大学人間福祉学部福祉学科 福祉心理学科 教授 西 山 薫 氏</p> <p>4 「高校生における相談業務の原点」</p> <p>臨床心理士 川 岸 由里子 氏</p> <p>5 「事例発表」「教育相談の現状と成果ーある芸術音楽クラスの実態ー」・「情報交換」</p> <p>発表者 北海道札幌厚別高等学校 教諭 佐 藤 良 嗣 氏</p> <p>スーパーバイザー 開善塾教育相談研究所 所長 金 澤 純 三 氏</p>	401



39	23. 1. 8	<p>○講演「教師の悩みとメンタルヘルス」 明治大学文学部 教授 諸 富 祥 彦 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「高等学校における特別支援教育 ～発達障害の理解と支援～」 北海道教育大学札幌校 教授 青 山 真 二 氏</p> <p>2 「ピア・サポート活動の概要と実践」 北翔大学人間福祉学部福祉心理学科 教授 中 出 佳 操 氏</p> <p>3 「メンタルヘルスを通じた高校教育の個性化」 北海道医療大学心理科学部 准教授 富 家 直 明 氏</p> <p>4 「学校教育相談に活かすコーチングの考え方とスキル」 (株) ゆめかな 代表取締役 石 川 尚 子 氏</p> <p>5 「認知行動療法 (CBT) を活用した授業の紹介と日常実践で役に立つCBTテクニック」 発表者 市立札幌大通高等学校 養護教諭 渡 辺 千 鶴 氏 発表者 臨床心理士・認定行動療法士 太 田 滋 春 氏</p>	309
40	24. 1. 13	<p>○講演「安心感、充実感のある学校生活の創造」 広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター教授 栗 原 慎 二 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「ピア・サポート活動の概要と実践」 広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター教授 栗 原 慎 二 氏</p> <p>2 「子どもの立場を重視した問題解決～調査・調整について」 子どもアシストセンター代表 子どもの権利救済委員 市 川 啓 子 氏</p> <p>3 「少年犯罪・少年非行に対応する教育相談について」 道警本部少年サポートセンター少年心理専門官 吉谷地 貴 幸 氏</p> <p>4 「高等学校における特別支援教育 ～発達障害の理解と進路指導を中心に～」 北海道札幌南陵高等学校 教諭 渡 辺 晃 史 氏</p>	314
41	25. 1. 11	<p>○講演「一人ひとりの充実した学校生活を支える学校風土 ～予防から早期介入までを含めた支援体制づくりから～」 福岡教育大学大学院 教育学研究科教職実践専攻 教授 西 山 久 子 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「高等学校における特別支援教育 ～進路指導の視点から～」 北海道札幌南陵高等学校 教諭 渡 辺 晃 史 氏</p> <p>2 「思春期のうつ ～発達障害の視点から～」 北海道大学大学院保健科学研究院生活機能学分野 教授 傳 田 健 三 氏</p> <p>3 「打って出る生徒指導 ～Q-U (心理検査) を使った学級経営～」 釧路工業高等専門学校 教授 三 島 利 紀 氏</p> <p>4 「ピア・サポート演習 ～高校生の現状に焦点化して～」 日本ピア・サポート学会全国理事 齋 藤 敏 子 氏</p> <p>5 「困難 (福祉的要因) を抱える生徒支援についての事例検討」 発表者 北海道旭川農業高等学校 教諭 福 原 泉 氏 助言者 北海道釧路東高等学校 教頭 上 田 智 史 氏</p>	339
42	26. 1. 11	<p>○講演「心の危機と向き合う生徒指導の進め方」 兵庫教育大学大学院学校教育研究科生徒指導実践開発コース 教授 新 井 肇 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「自尊感情の回復とソーシャル・コンピテンシー ～『いじめ』の予防的支援で問われていること～」 北海道教育大学大学院 教授 庄 井 良 信 氏</p> <p>2 「高校でのスクールカウンセラー活用の“ひと工夫”と課題」 北海道教育大学札幌校 准教授 平 野 直 己 氏 北海道北広島高等学校 養護教諭 池 下 美由紀 氏</p> <p>3 「構成的グループエンカウンター (SGE) とその背景」 札幌市立向陵中学校 教諭 瀬 尾 尚 隆 氏</p> <p>4 「札幌英藍高校教育相談の取り組み～ピア・サポートの可能性を求めて～」 北海道札幌英藍高等学校 教諭 森 一 生 氏</p> <p>5 「支援連続の必要性～中高からその先へ～」 発表者 北海道札幌開成高等学校 教諭 細工藤 まりこ 氏 発表者 市立札幌大通高等学校 養護教諭 渡 辺 千 鶴 氏 助言者 札幌市立豊明高等養護学校 養護教諭 西 野 昭 子 氏</p>	234
43	27. 1. 10	<p>○講演「心の危機と向き合う生徒指導・教育相談の進め方 (Part2)」 ～協働的指導・相談体制の構築に向けて～ 兵庫教育大学大学院学校教育研究科生徒指導実践開発コース 教授 新 井 肇 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「高校生期の悩みや課題とその対応について」 北星学園大学社会福祉学部 教授 今 川 民 雄 氏 NPO法人チャイルドラインさっぽろ理事</p> <p>2 「思春期の理解とその対応」 北海道立精神保健福祉センター 相談研究部長 上 田 敏 彦 氏</p> <p>3 「自己肯定感を高め自発性を引き出すコーチングアプローチ」 株式会社ゆめかな代表取締役 ビジネスコーチ 石 川 尚 子 氏</p> <p>4 「特別支援教育の視点をどのように広げていくか」 実践発表者 北海道釧路明輝高等学校 教諭 大川原 卓 也 氏 助 言 者 北海道教育大学函館校国際地域学科地域教育専攻 准教授 北 村 博 幸 氏</p> <p>5 「学校の中で苦戦している生徒の理解と支援～発達障害の視点から～」 北海道教育大学釧路校国際地域学科地域教育専攻 准教授 北 村 博 幸 氏</p>	205

44	28. 1. 9	<p>○基調講演「学校教育相談への期待に応えるために」 神田外語大学教職課程国際コミュニケーション学科 教授 嶋 崎 政 男 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「思春期から大人の発達障害の理解と対応」 北海道医療大学心理学部臨床心理学科 講師 金 澤 潤一郎 氏</p> <p>2 「白老東高校の教育相談、特別支援教育の体制について」 実践発表者 北海道白老東高等学校 教諭 前 川 護 氏 助 言 者 美唄市立中央小学校 校長 砂 川 昌 之 氏</p> <p>3 「ストレスマネジメント教育」 北海道教育大学大学院教育学研究科 教授 安 川 禎 亮 氏</p> <p>4 「すべての子ども・若者たちに明るい未来を！ ～支援・指導から「相互自己実現」の視点への転換」 NPO法人地域生活支援ネットワークサロンの非常勤理事 日 置 真 世 氏</p> <p>5 「学校力を高める教育相談体制を目指して～保護者への対応」 美唄市立中央小学校 校長 砂 川 昌 之 氏</p>	205
45	29. 1. 13	<p>○基調講演「はっきりしない若者たちと付き合う」 開善塾教育相談研究所 顧問 金 澤 純 三 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「不登校・ひきこもりの理解と支援～親とソーシャルワーカーの立場から」 はこだて若者サポートステーション相談支援員 (社会福祉士、精神福祉士) 野 村 俊 幸 氏</p> <p>2 「教育相談的側面からみた大麻高校について」 実践発表者 北海道大麻高等学校 教諭 巖 和 義 氏 助 言 者 開善塾教育相談研究所 顧問 金 澤 純 三 氏</p> <p>3 「心に寄り添うアンガーマネジメント～感情理解教育の大切さ～」 日本アンガーマネジメント協会トレーニングプロフェッショナル 長 縄 史 子 氏</p> <p>4 「見方を変えて子どもの問題をみる」 北海道大学大学院教育学研究院准教授 加 藤 弘 通 氏</p> <p>5 「災害・事件・事故後の子どもの心のケア」 北海道教育大学保健管理センター准教授・専任カウンセラー 三 上 謙 一 氏</p>	202
46	30. 1. 12	<p>○全体講演「生徒を取り巻く状況を踏まえた教育支援のあり方」 立命館大学大学院応用人間科学研究科教授 野 田 正 人 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「生徒と保護者を支える教育相談の実践」 開善塾教育相談研究所 所長 藤 崎 育 子 氏</p> <p>2 「人間関係を豊かに育てるピア・サポートプログラムについて～理論と演習～」 北海道八雲高等学校 養護教諭 長 野 喜美子 氏</p> <p>3 「発達障害と生徒指導」 F R教育臨床研究所所長・共栄大学客員教授 花 輪 敏 男 氏</p> <p>4 「札幌英藍高校の教育相談について～教育相談体制と不登校生徒の支援～」 北海道札幌英藍高等学校 教諭 森 一 生 氏</p> <p>5 「学校とスクールソーシャルワーカー」 札幌学院大学人文学部人間科学研究科 教授 横 山 登志子 氏</p>	267
47	31. 1. 11	<p>○全体講演「キャリア・カウンセリングの視点に基づく教育相談―学校から社会への歩みを考える」 福岡教育大学大学院教授 西 山 久 子 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「高校生のメンタルヘルスケアについて」 ストレスケアすすきのクリニック 院長 佐々木 竜 二 氏</p> <p>2 「普通科の高校における特別な支援を要する生徒の進路について」 発表者 北海道月形高等学校 教諭 大 端 開 氏 助言者 北海道釧路江南高等学校 校長 中 西 勝 範 氏</p> <p>3 「危機介入を意識した初回面接演習」 北翔大学教育文化学部 准教授 飯 田 昭 人 氏</p> <p>4 「発達障害のある高校生への支援」 北星学園大学社会福祉学部 教授 田 実 潔 氏</p> <p>5 「地域で支える若者支援について」 札幌市若者支援総合センター Youth+センター館長 松 田 考 氏</p>	326
48	2. 1. 9	<p>○全体講演「学習者の可能性を引き出すコーチング」 京都造形芸術大学 副学長 本 間 正 人 氏</p> <p>○研修講座</p> <p>1 「ゲーム症（障害）の現状と関わり方のコツ」 手稲溪仁会病院 精神保健科 部長 白 坂 和 彦 氏</p> <p>2 「共生社会の実現を見据えた豊かな心を育成する教育の実践について ～教育相談の立場における生徒支援～」 発表者 北海道阿寒高等学校 教諭 澤 田 雄 介 氏 助言者 北海道札幌北高等学校 教頭 渡 辺 晃 史 氏</p> <p>3 「ソリューション・フォーカストアプローチ（解決志向）入門」 解決のための面接研究会 龍 島 秀 広 氏</p> <p>4 「子どもが抱える困難・ニーズと地域資源をつなぐ」 認定NPO法人 Kacotam理事長・社会福祉士 高 橋 勇 造 氏</p> <p>5 「学校と家庭の協力関係を促進する不登校支援のポイント」 北海道大学学生相談総合センター 准教授 齋 藤 暢一朗 氏</p>	301

49	3. 1. 8	○リモート大会 全体講演「学校復帰を目指して ～何もしない教育相談からの脱却～」 開善塾教育相談研究所 顧問 金 澤 純 三 氏	127
50	4. 1. 14	○記念講演 「臨床から見えてくる高校生の“こころ”と“そだち”について」 医療法人社団倭会 こころとそだちのクリニック むすびめ 院長 田 中 康 雄 氏 ○基調講演 「高校教師に求められる生徒指導・教育相談のこころについて」 東京大学 理事 今 泉 柔 剛 氏 ○シンポジウム 「これからの学校教育相談に期待すること～連携・協働の在り方～」 シンポジスト 東京大学 理事 今 泉 柔 剛 氏 知内町教育委員会 教育長 本 間 茂 裕 氏 北海道教育大学札幌校 准教授 益 子 洋 人 氏 札幌市教育委員会 スクールソーシャルワーカー 高 野 和 美 氏 コーディネーター 開善塾教育相談研究所 所長 藤 崎 育 子 氏	232
51	5. 1. 13	○研修講座 1 「多様な性を生きることとたちのリアル」 NPO法人北海道レインボー・リソースセンター 代表理事 中 谷 衣 里 氏 2 「いじめ・自殺予防などの高校生の心理との関係」 札幌学院大学 臨床心理学科 教授 大 宮 秀 淑 氏 3 「教育相談的コミュニケーションスキルアップ入門」 笑華尊塾 塾長 塩 谷 隆 治 氏 ○全体講演 「精神科医が見たデジタル時代の若者心理」 むかわ町国民健康保険徳別診療所 副所長 香 山 リ カ 氏	211
52	6. 1. 13	○全体講演 「生徒指導提要の改定を踏まえたこれからの生徒指導・教育相談の進め方」 関西外国語大学 外国語学部 教授 新 井 肇 氏 ○研修講座 1 「不登校引きこもり問題に取り組む～教師が身につけたい教育相談技法」 開善塾教育相談研究所 所長 藤 崎 育 子 氏 2 「今、学校に求められるいじめ問題の理解と対応」 関西外国語大学 外国語学部 教授 新 井 肇 氏 3 「コミュニケーションカードから見えてくる、高校生の心」 株式会社 地球はメリー・ゴーランド 代表 田 村 睦 美 氏	140
53	7. 1. 10	○全体講演 「素直でまじめでいい子」でも「失敗することが怖い」 いい子症候群の若者たちと共に前へ進むために 金沢大学 融合研究域融合科学系 教授 金 間 大 介 氏 ○研修講座 1 「自殺予防のために私たちができること～最近の生徒の様子から～」 北海道医療大学心理科学部 学部長 富 家 直 明 氏 2 「生い立ちに困難を抱える生徒の理解と支援」 北海道大学大学院教育学研究院 准教授 井 出 智 博 氏 3 「気が楽になる論理療法」 北海道・青森教育カウンセラー協会代表 大 友 秀 人 氏	209

#### 歴代会長（本研究大会を会長として運営した校長）

細 谷 猛	柳 沢 二 郎	岩 田 悦 夫	須 藤 悌 次
村 上 侃	房 崎 清 隆	谷 川 幸 雄	中 斉 利 信
前 東 昭	山 城 宏 惟	水 野 忠 昭	川 村 道 夫
藤 森 利 夫	楠 本 高 弘	野 瀬 政 裕	鳥居大路 勝廣
酒 井 周 文	坂 下 繁	坂 本 哲	辻 敏 裕
本 間 茂 裕	小 林 憲 雄	小 路 修 司	橋 本 達 也
中 西 勝 範	上 田 智 史	近 藤 浩 文	町 田 英 謙

## 相談窓口案内

### 教育センター等

#### ◆ 子ども相談支援センター

〒060-0834 札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館8階  
来所相談（予約） 0120-3882-56 月～金 10:00～16:00  
電話相談 0120-3882-56 毎日24時間  
メール相談 sodan-center@hokkaido-c.ed.jp

#### ◆ 北海道立特別支援教育センター

〒064-0944 札幌市中央区円山西町2丁目1-1  
来所相談（予約）・電話相談  
（教育相談専用） 011-612-5030  
メール相談 tokucensoudan@hokkaido-c.ed.jp

#### ◆ 札幌市教育センター教育相談室

〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10  
来所相談（予約）・電話相談  
（教育相談室専用） 011-671-3210 月～金 8:45～17:15

#### ◆ 子どもの権利救済機関子どもアシストセンター

〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目 大通バスセンタービル1号館6階  
月～金 10:00～20:00 土 10:00～16:00  
子ども用フリーダイヤル 0120-66-3783  
大人用 011-211-3783  
メール相談 assist@city.sapporo.jp

### 精神保健福祉センター

#### ◆ 北海道立精神保健福祉センター ※ 北海道民が対象（札幌市を除く）

〒003-0027 札幌市白石区本通16丁目北6-34  
精神保健福祉相談（来所予約） 011-864-7000 月～金 8:45～17:30  
こころの健康相談統一ダイヤル 0570-064-556 月～金 9:00～21:00  
土日祝 10:00～16:00

#### ◆ 札幌こころのセンター（札幌市精神保健福祉センター） ※ 札幌市民が対象

〒060-0042 札幌市中央区大通西19丁目 WEST19 4F  
精神保健福祉相談（来所予約） 011-622-0556  
こころの健康づくり電話相談 011-622-0556 月～金 9:00～17:00  
こころの健康相談統一ダイヤル 0570-064-556 月～金 17:00～21:00  
土日祝 10:00～16:00

### 警察

#### ◆ 北海道警察本部少年サポートセンター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7ビル3階  
月～金 8:45～17:30 ※ 時間外と土・日・祝日は留守番電話対応  
少年相談110番 0120-677-110  
携帯からは 011-251-0110

## 児童相談所

- ◆ 北海道中央児童相談所（管轄区域：石狩[札幌市を除く]、後志）  
〒064-8564 札幌市中央区円山西町2丁目1-1 0 1 1 - 6 3 1 - 0 3 0 1
- ◆ 北海道旭川児童相談所（管轄区域：上川、留萌）  
〒070-0040 旭川市10条通11丁目 0 1 6 6 - 2 3 - 8 1 9 5
- ◆ 北海道稚内児童相談所稚内分室（管轄区域：宗谷）  
〒097-0002 稚内市潮見1丁目11 0 1 6 2 - 3 2 - 6 1 7 1
- ◆ 北海道函館児童相談所（管轄区域：渡島、檜山）  
〒040-8552 函館市中島町37-8 0 1 3 8 - 5 4 - 4 1 5 2
- ◆ 北海道帯広児童相談所（管轄区域：十勝）  
〒080-0801 帯広市東1条南1丁目1-2 0 1 5 5 - 2 2 - 5 1 0 0
- ◆ 北海道釧路児童相談所（管轄区域：釧路、根室）  
〒085-0805 釧路市桜ヶ丘1丁目4-32 0 1 5 4 - 9 2 - 3 7 1 7
- ◆ 北海道北見児童相談所（管轄区域：オホーツク）  
〒090-0061 北見市東陵町36-3 0 1 5 7 - 2 4 - 3 4 9 8
- ◆ 北海道岩見沢児童相談所（管轄区域：空知）  
〒068-0828 岩見沢市鳩が丘1丁目9-16 0 1 2 6 - 2 2 - 1 1 1 9
- ◆ 北海道室蘭児童相談所（管轄区域：室蘭・登別・伊達市、豊浦・洞爺湖・壮瞥町）  
〒050-0082 室蘭市寿町1丁目6-12 0 1 4 3 - 4 4 - 4 1 5 2
- ◆ 室蘭児童相談所苫小牧分室（胆振管内：[上記除く]、日高）  
〒053-0045 苫小牧市双葉町3丁目7番2号 0 1 4 4 - 6 1 - 1 8 8 2
- ◆ 札幌市児童相談所（札幌市内）  
〒060-0007 札幌市中央区北7条西26丁目1-1 0 1 1 - 6 2 2 - 8 6 3 0

## 児童家庭支援センター

- ◆ エンゼルキッズこども家庭支援センター（管轄区域：石狩[札幌市を除く]、後志）  
〒061-1121 北広島市中央4丁目5番地7 011-372-8341
- ◆ 児童家庭支援センターくるみ（管轄区域：渡島、檜山）  
〒041-0803 函館市亀田中野町38-11 0138-46-5095
- ◆ 光が丘子ども家庭支援センター（管轄区域：空知）  
〒068-0827 岩見沢市春日町2丁目3-7 0126-22-4486
- ◆ 美深子ども家庭支援センター（管轄区域：上川、宗谷、留萌）  
〒098-2214 美深町字敷島283 01656-9-2500
- ◆ 子ども家庭支援センターオホーツク（管轄区域：オホーツク）  
〒099-0702 遠軽町生田原伊吹46-3 0158-45-3211
- ◆ 児童家庭支援センタービリーブ（管轄管内：胆振、日高）  
〒053-0031 苫小牧市春日町3丁目14-16 0144-77-0547
- ◆ 十勝こども家庭支援センター（管轄区域：十勝）  
〒080-0809 帯広市東9条南21丁目1-9 0155-22-3322
- ◆ 釧路こども家庭支援センター（管轄区域：釧路、根室）  
〒085-0811 釧路市旭町16-5 0154-32-1150
- ◆ 興正こども家庭支援センター（札幌市内）  
〒001-0904 札幌市北区新琴似4条9丁目1-1 011-765-1000
- ◆ 羊ヶ丘児童家庭支援センター（札幌市内）  
〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条17丁目4-33 011-854-2415
- ◆ 札幌南子ども家庭支援センター（札幌市内）  
〒061-2286 札幌市南区藤野6条2丁目427-4 011-591-2200
- ◆ 札幌乳児院児童家庭支援センター（札幌市内）  
〒003-0859 札幌市白石区川北2254-1 011-879-6264
- ◆ はくよう児童家庭支援センター（札幌市内）  
〒063-0023 札幌市西区平和3条7丁目3番47号 011-676-5208
- ◆ なんそうえん子ども家庭支援センター（札幌市内）  
〒064-0943 札幌市中央区界川1丁目6番14号 011-561-0783

## その他

### ◆ 北海道家庭生活総合カウンセリングセンター

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目道民活動センタービル（かでる2・7）5階

#### ・犯罪被害者相談

電話相談	011-232-8740	月～金	10:00～16:00
	0570-783-554	毎日	07:30～22:00(全国)
FAX相談	011-211-8151	24時間受付	

#### ・性暴力専用ダイヤル

011-211-8286 月～金 10:00～16:00

#### ・家庭生活相談全般

電話相談	011-261-0811	月～土	10:00～12:00
	011-232-1956		13:00～16:00
	011-251-5394		

#### ・面接相談（要予約）

011-251-6408 月～金 10:00～16:00

### ◆ 性暴力被害者支援センター北海道（SACRACHさくらこ）

#### ・電話相談

0120-8891-77 NTT ひかり電話から通話無料  
#8891 携帯電話・アナログ固定電話から通話無料(全国)  
050-3786-0799 通話有料(全国)

#### ・メール相談 sacrach20191101@leaf.ocn.ne.jp

#### ・LINE 相談あり LINE「さくらこ相談室」で検索

#### ・面談相談 原則1回30分（予約制）月～金 10:00～20:00

#### ・関係機関（病院、弁護士、警察、区役所など）への付き添い支援（札幌市内）

#### ・協力機関（性被害を理解している産婦人科、精神科、弁護士等）への紹介

### ◆ 特定非営利活動法人子どもシェルターレパリカ ※ 支援対象は20歳未満の女子

〒060-0042

札幌市中央区大通西12丁目北海道高等学校教職員センター5階 北海道合同法律事務所内

011-272-3125 平日 09:15～17:15

### ◆ よりそいホットライン

0120-279-338 毎日24時間

### ◆ 北海道ヤングケアラー相談サポートセンター ※ 相談は道内在住の18歳未満の方

（高校3年生は18歳に達していても相談）

〒069-0822 江別市東野幌本町7-5（セリオ野幌店内）

・電話相談 0120-516-086 平日8:45～17:30

・携帯電話 080-4136-4129 24時間365日受付

・SNS専用 080-9612-1247 24時間365日受付

・メール相談 hokkaido.young.carer2022@gmail.com

・Facebook facebook.com/hokkaido.young.support

・X（旧:Twitter）@youngcarer2022